

入院診療は、新生児期(日齢28未満)の赤ちゃんを対象としていますが、ほとんどが出生直後から数日以内の新生児です。新生児を専門とする小児科医が小児科専攻医とともに、新生児期に発症する特異的な疾患や周産期特有の問題などの解決にあたります。

外来は、主にNICUを退院した赤ちゃんのフォローアップで

す。とくに出生体重1500g未満の極低出生体重児では、神経学的後障害、慢性肺疾患、視力障害、低身長などの身体的問題や、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害などの神経発達症(発達障害)の頻度が高いことが知られています。また、NICUから退院した医療的ケアを必要とする患者さんの診療も重要です。

当院の新生児医療

当院の新生児医療の歴史は古く、日本の新生児医療黎明期からその先頭に立ってきました。1963年には未熟児センターを開設し、1974年に新生児集中治療室(NICU)を設置しました。母乳育児を推進し1991年に先進国で初めて、「赤ちゃんにやさしい病院」(Baby Friendly Hospital)に認定されています。2004年からは母体・胎児部門(産科)とともに岡山県の総合周産期母子医療センターに認定されています。

〈NICU(5B)〉

中核をなすNICU(5B病棟)は、関係各科との連携のもと新生児のすべての疾患を扱う病棟です。意外と知られていないかもしれませんが、NICUに入院する赤ちゃんの約半数は正期産児です。胎児から新生児への環境の変化に対応できない場合、先天性の異常のために出生後の呼吸、循環、哺乳、排尿、排便などに問題を生じる場合など、新生児の総合内科として関連各部門(小児外科、脳神経外科、眼科、形成外科、岡山大学病院心臓血管外科など)と連携して診療にあたっています。そのためNICUは新生児の総合病院としての機能を必要とします。産院で出生後に異常症状が出現した場合には、われわれ新生児科医がドクターカーで出動して搬送しています(70-100/年)。

早産・低出生体重児、とくに在胎28週未満の超早産児、出

生体重1000g未満の超低出生体重児では出生後の合併症も多く、入院期間は3か月以上にも及びますが、当院では過去10年以上生存率90%以上を保持しています。

赤ちゃんがご家庭での生活を安心して始めることができるように保健師や行政との連携を密に行い、退院前の多職種カンファレンスを積極的に行っています。

〈胎児診断・プレネイタルビジット〉

近年、比重が高くなってきているのは出生前診断症例の診療です。胎児エコーで異常が認められ、精査(羊水染色体検査や胎児MRIなど)により出生前診断される症例が増加しています。胎児治療、出生直後からの集中治療・外科治療などを産科や小児外科などとともに綿密に計画し、家族にプレネイタルビジットでのInformed consentを実践しています。絶対的予後不良な疾患の場合、出生後の大切な時間をどこでどのように家族と一緒に過ごすかなどを相談していくことも我々の重要な仕事です。

〈産科病棟(6A)〉

異常分娩(帝王切開も異常分娩になります)での出生時の立ち会いや、産科病棟の赤ちゃん(いわゆる正常新生児や在胎35~36週の後期早産児の退院までの管理、授乳中のお母



超低出生体重児の超急性期



超低出生体重児の亜急性期

さんへの薬剤投与についての相談にのるのも我々の仕事です。

〈母乳育児〉

母乳育児は、NICU入院中の赤ちゃんを含むすべての赤ちゃんの健康とよりよい発達のためにとても大切です。当院では、赤ちゃんがNICUに入院する場合でも、お母さんが母乳育児を開始して継続できるように産科と連携して支援しています。出生体重1000g未満の超低出生体重児の退院時の母乳育児率は7割を超えており、世界でも例をみないほど高率です。NICUに入院中の赤ちゃんのために何か月も母乳を搾って届けてくださるお母さんに感謝するとともに、母乳育児が継続できるように包括的に支援する目的で、毎週水曜日に「ママサポート回診」を行っています。

〈外来〉

極低出生体重児(<1500g)のみならず、後期早産児(33~36週)の予後にも注目が集まってきており、NICUを退院された赤ちゃんの発育・発達フォローアップは、患者様・ご家族のためにも、そして予後調査のためにも非常に重要な仕事になります。フォローアップ体制の充実が必要であり、神経発達症のための専門外来も開設しています。

また近年、増加が注目されている医療的ケア児の70-80%はNICU入院歴がある子どもたち(重症新生児仮死児、先天異常児など)であり、訪問診療医、訪問看護ステーションと連携して診療を行っています。

〈教育・啓蒙〉

日本周産期・新生児医学会が主導する、新生児蘇生法普及事業(NCPR)の一翼も担っています。当院のスキルアップラボ

において、年に2回、院外・院内を問わず周産期医療従事者を対象に分娩に立ち会うすべての人が適切な新生児蘇生を行うことができるようにNCPR講習会を開催しています。また産科・小児外科と協力して、開業産院、総合病院産科の先生、看護スタッフとの勉強会を開催しています(ペリネイタルミーツING OKAYAMA)。学生教育にも力を注いでおり、当院附属の助産科の講義はもちろんのこと、岡山大学の医学生実習にも精力的に協力しています。同保健学科の「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムにおいても、助産師免許や看護師免許を取得しながら結婚、妊娠、子育てのため家庭に入った女性などの復職支援にも協力しています。

〈研究〉

近年は研究活動にも精力的に取り組んでおり、権威ある英語雑誌への論文掲載や小児科学会雑誌総説の執筆、海外学会での口演などが続いています。

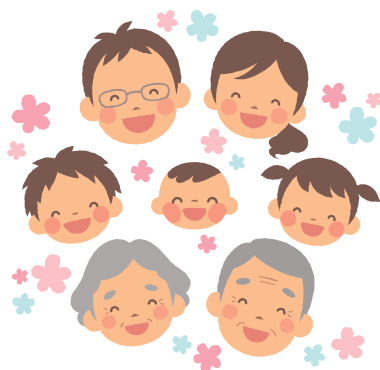


表彰・発表 竹内章人医師(左側)、玉井圭医師(右側)

ファミリーセンタード・ケア(FCC)

近年、周産期医療の世界ではFCCの重要性が注目されています。家族が医療ケアの提供者となることで早産児の長期予後が改善するといった報告もみられるようになり、赤ちゃんの予後を最優先すべき医師としても、家族を中心に、看護師、臨床心理士など他職種と協働してFCCを積極的に取り入れるべき時代になっています。NICUでは、入院中から家族みんなでお母さんやお父さん、おばあさんやおじいさんなど赤ちゃんを育む時間を大切にしたいと考え、10年以上前

から赤ちゃんの祖父母、全国的にはまだ実践施設が少ないきょうだい面会も実践しています。もちろん両親は365日24時間いつでも面会できます。



きょうだい面会の様子

スタッフ紹介

スタッフ医 5 名、レジデント 4 名、小児科後期研修医 0 - 2 名、周産期センター専属の臨床心理士で診療にあたっています。

【診療部長】

影山 操(平成6年卒) 小児科専門医、周産期専門医・暫定指導医(新生児)、岡山大学臨床教授

【医長】

中村 信(平成5年卒) 小児科専門医、周産期専門医(新生児)

【医師】

中村 和恵(平成5年卒) 国際認定ラクテーション・コンサルタント

竹内 章人(平成15年卒) 小児科専門医、周産期専門医(新生児)、小児神経専門医、岡山大学非常勤講師。趣味はドラム。

玉井 圭(平成18年卒) 小児科専門医、周産期専門医・指導医(新生児)、NCPRインストラクター。趣味はバスケットボール、飲み会で、いつも飲みすぎてしまいます。どなたか二日酔いに効く薬(方法)を教えてください!

【レジデント】

福嶋 ゆう(平成21年卒) 小児科専門医、周産期専門医(新生児)。臨床遺伝専門医取得に向けて研修中。趣味はフィギュアスケート観戦、ライブ鑑賞、スノボです。

服部真理子(平成23年卒) 趣味は温泉めぐり。一児の母でときどき当直も頑張っています。好きなタイプはお相撲さんとラガーマン。

大山 麻美(平成26年卒) 小児科専門医、NCPRインストラクター。特技は早寝、そろばんです。ニックネームは大山「名人」。将棋は得意ではありませんが、赤ちゃんのライン確保はお任せ下さい!新婚です。

佐藤 剛史(平成26年卒) NCPRインストラクター。新婚超ホヤホヤで、趣味はロードバイク、水泳、ピアノです。頭を丸めて熱い気持ちで新生児医療に取り組みます!

【小児科専攻医】

村上美智子(平成29年卒) 新婚ホヤホヤの後期研修1年目です。小児科全般勉強中です!新生児の診療は緊張しますが楽しく頑張っています!趣味はオーボエ演奏、ボルダリングです。

【臨床心理士】

松田 良子 「場にいる」がモットーの心理士。3人の柔道少年を育てたお母さんで、元保育士、元準ミス〇〇短大です。ホットヨガにはまっています。



新生児科スタッフ